



連載
[十月]

レンズを通して

写真・文 高円宮妃久子殿下

コブハクチヨウ 152cm カモ科

ヨーロッパから中東にかけ分布し、中国東北部でも繁殖している。日本には観賞用として導入された。飼育されていた個体の野生化により日本各地で目撃するが、実は外来種。

踊る鳥たち

写真文 高田宮妃久子

昨年の7月にヨーロッパで弓道の大会があり、オランダに参りました。「低い国」「水の国」として知られるオランダは国土の約半分が海拔1m以下で、人々が心地よく且つ安全に生活できる国を築くには様々な創意工夫が必要でした。堤防を作り、風車を使って水を運河や水路へと排出し、ポルダーという干拓地を作りました。運河や水路は人々の暮らしの一部分であり、車の代わりにボートで移動する人や大きめのボートを住居として登録している人がおり、道路と同じような位置づけになっています。

街を出ると、白い雲が浮かぶ大きな青い空と平らに広がる農地、点在する牛の景色が19世紀の絵画さながらに展開されます。とても美しいのですが、それと同時に温暖化による海面の上昇が国土の存続に大きな影響を及ぼすであろうこともよくわかりました。

この度ご紹介する写真は帰国する日の朝にナールデル湖で撮ったものです。1905年、ナールデル湖を街のゴミ捨て場として使用する案がアム

ステルダム市議会で検討され、市民が反対運動を起こして阻止したそうです。それをきっかけにオランダに自然保護協会が設立されたと説明を受け、そのような象徴的な場所を視察できることをとても嬉しく思いました。

現地到着の早朝5時半から、撮影にあてられる時間は5時間しかなかったのですが、鳥たちはとても協力的でした。早朝のナールデル湖自然保護地区は何とも美しく、豊かで、環境保全活動や鳥類の調査の説明を聞きながら、カメラを構えてゆっくりボートで移動。地面に対して水位が高いとつくづく思いました。

早朝は鳥が活発に動くので、思いがけない姿を見たり、新しい発見があったりします。そして撮影には光がとても大事であり、早い時間ですと光がやわらかく横から射しこんできて鳥の顔を明るく照らしてくれます。この日の水面がうまくレフ板の役割を果たしてくれたこともあり、自分なりに合格点と思える写真が幾枚か撮れました。今回はその中からバレエ音楽が聞こえてきそうな踊る鳥たちの写真をご紹介します。

最初の写真はオスとメスのコブハクチョウがハートのような形になったところで、バレエ「白鳥の湖」のプログラムに使えそうです。次のアジサ



撮影場所=オランダ ナールデル湖

シはグライダーのような翼にコンパクトなボディ、そして短い足と、長時間飛ぶことや急降下して魚を捕るのに適した体をしています。したがって、このように飛び交っている時は、実にエレガントで美しく舞っているように見えます。最後は何度見ても笑ってしまうのですが、ムラサキサギが木の最上部から飛び立つ瞬間です。ちよつと体の大きなバレリーナに見えるとお思ひになりませんか。

1990年代、「Air and Water」という生物学の本が出版され、そこには水と空気という二つの流体の違いや地球上のすべての生命体にそれらがどのような影響を与えたかについて記されていました。水の国オランダの踊る鳥たちを見ながら、久しぶりにあのちよつと難しい本を読んでみたいと思った次第です。

アジサシ 35・5cm カモメ科

北米からユーラシア大陸中南部にかけて極めて広く分布し、冬は南に渡る。日本では全国の海岸に多数渡来する旅鳥。空から海に飛び込んだら、盛んに魚を捕食する。



ムラサキサギ 78・5cm サギ科

ヨーロッパから中東と中国東北部の湿地帯で繁殖し、冬季はアフリカ、インド、東南アジアなどに渡る。日本では滅多に見られない珍鳥だが、ナールデル湖には多数が生息。

